

高校生の死生観と新型コロナウイルスによる死生観の変化

家庭科班：音田 燎佳 植田 瑚音

要約

本研究の目的は、現代の高校生がどのような死生観を持ち、死についてどう考えているのか、また、昨今の新型コロナウイルスと過去の伝染病の流行から、宗教と死生観との関連性を明らかにすることである。アンケート調査によって、高校生の死生観は仏教的死生観との関連があるということがわかった。従って本研究では、高校生の死生観は、仏教的死生観に基づいているがそれは現代文学や娯楽によって構築されていること、伝染病が流行ごとに宗教的運動が行われているため、今回の新型コロナウイルスによっても同様のことが起こる可能性があるということが結論付けられた。

Abstract

The purpose of this study is revealing that high school students think about dying, and the relationship between religion and view of life and death. The experiment shows that the view relate to Buddhism. This study concludes that it is based on Buddhism because of modern writing and entertainment and religious movement likely to be happened because it is done every time epidemics happened.

1. 序論

これまで人々は死を厭い、遠ざけてきたが、新型コロナウイルスにより、著名人や身近な人が亡くなってしまうなど、これまでよりも死に向き合うことが多くなった昨今、人々の死生観（死に対する考え方）は何に影響を受けているのか、何によって変化するのかを研究する。また、死生観を構築するための要因について、さらにこれまでの伝染病と宗教の関係性から、新型コロナウイルス流行による宗教的死生観の今後を研究する。高校生の死生観を調査するために高津高校1, 2年生にアンケートを行った。

2. 研究手法

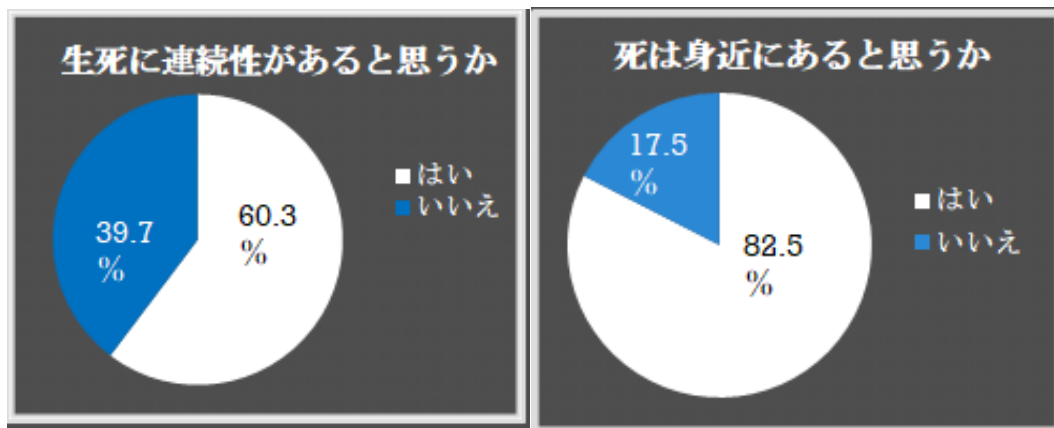
高津高校生1年280人、2年280人に用紙またはgoogleフォーム上でアンケートを行った。

質問内容

- ① 生死に連続性があると思うか。
- ② 死は身近にあると思うか。

新型コロナウイルスによる死生観の変化について、過去の伝染病などから宗教との関連性について調べる。

3. 結果



全体の約2割の人が死は身近にないと答えた。また、全体の6割が生死に連続性があると答えた。

4. 考察

高校生にも死と向き合う機会が少なく、深く考えることがないと思われる。また、生死の連続性については、現代文学、漫画等の作品に用いられることが多いためだと考えられるが、根拠は仏教的死生観に基づいたものである。

また、過去の事例から、宗教改革の原因の一つにペストの流行、天然痘の流行により、奈良の大仏の建立につながるなど、伝染病と宗教の関係は根強いことが分かった。このことからコロナウイルスは社会に宗教的な影響を及ぼす可能性があると考えられる。

5. 結論

高校生の死生観は現代文学や漫画等、文化的な部分によって構築されている。新型コロナウイルスによる社会への影響は経済など表立ったところだけでなく、人々の精神にも影響を与えている。今後、新型コロナウイルスによって、宗教的運動が起こる可能性があると考えられる。

6. 参考文献

内藤理恵子著 (2019) 誰も教えてくれなかった「死」の哲学入門

シェリー・ケーガン著 (2018) 「死」とは何か イェール大学で23年連続の人気講義

株式会社ニュートンプレス発行 (2020) Newton7月号 死とは何か

朝日新聞デジタル (2020.9.30) ペストは宗教改革の引き金に コロナは人類に何をもたらす

<https://www.google.co.jp/amp/s/www.asahi.com/amp/articles/ASN9Y7DXJNWUHBI022.html>

<https://true-buddhism.com/teachings/viewofdeath/>